



平和資料館 草の家 だより

No.103

2009年6月1日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyō.ne.jp <http://ha1.seikyō.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>

今年もピースウェイブの季節がやってきました
あらためて平和の大切さについて考えてみませんか



ピースウェイブ2009 in 高知を成功させよう 平和資料館・草の家 館長 岡村正弘

毎年6、7、8月はピースウェイブの行事がいっぱいおこなわれます。

草の家はピースウェイブの事務局をしています。私が事務局長を務めています。

「平和七夕まつりに参加しませんか」県下の小学校、中学校の校長に案内を出しました。福祉施設にもたくさん呼びかけました。各団体と連絡をとり、実行委員会を開き行事日程をきめ、高知市、高知市教育委員会、新聞、テレビの報道機関に後援依頼をし、OKをいただきました。

ポスター、チラシを作り配布します。事務局としてこんな仕事をしています。

第31回戦争と平和を考える資料展、第27回平和七夕まつり、第26回反核平和コンサート、第26回平和美術展、第26回平和映画祭などみんな頑張っています。

草の家は、第31回戦争と平和を考える資料展を主催します。高知空襲の体験者が少なくなり、空襲があったことも知らない人が多数になっているので、空襲の恐ろしさを絵に描いて展示しようと体験者に絵を描いてくださいと呼びかけています。高知新聞、毎日新聞、NHKが報道してくれました。数人が書き始めてくれました。

戦争に反対した人々のこと、日本軍が中国で何をしたか、高知の風船爆弾工場の少女たち、在日米軍と自衛隊、憲法前文お国ことば、イスラエルとパレスチナはどうなっているかなどを展示します。

自由民権記念館が展示場です。ぜひご覧になって下さい。

草の家で今年の展示を豊かなものにしようと会を開き担当を決め頑張っています。

ピースウェイブの行事はたくさんあります。友人、家族で参加し、平和の風を起こそう。

★★★ピースウェイブ成功のためカンパのお願い★★★

多彩な行事を成功させるため、ポスター、チラシ、会場費、展示物の製作費、通信費、輸送費、作品借用料など費用もかかります。みなさんのカンパが大きな支えになっています。よろしくお願ひします。

資料展の各コーナーの準備状況

【高知空襲被災者の絵】 西森智恵子さんは岡村館長の体験を描いています。もう下がきができあがりました。高知市仁井田の中学生だった北川健二さんはすでに完成して草の家に作品を寄せてくれています。

【父や兄や弟の戦死】 遺書、戦死公報、「父の出征を見送った二歳の私」の写真などを持ち寄り、どんな展示にするか検討しています。

【高知の風船爆弾工場の少女たち】 高知市旭の風船爆弾工場(いまのマーケット・サティ)に動員されていた高知師範学校女子部や土佐女子高等女学校の生徒たち、学校工場で組み立てや満球テストをしていた高知県立第一高等女学校や土佐高等女学校の生徒たち、伊野町の河野製紙に動員されていた高知県立佐川高等女学校の生徒たち、伊野町の伊野国民学校の教室で作業していた高知県立城東中学校の生徒たち……。そして、崎山ひろみさんがいた満州(中国東北部)の敷島高等女学校でも……。今回の調査で新しい史実も出てきています。二十五歳、八十二歳の女性が再現の絵を描いています。愛媛県四国中央市から風船爆弾の模型を借りることができることになりました。

君は、ガザを知っているか。－「写真展・ガザの悲劇」

草の家理事 太田紘志

立命館大学国際平和ミュージアムから、ガザの悲劇の写真とパネルが送られてきた。

高知市立市民図書館一階ホールで、4月14日～19日に開催した。

イスラエルとパレスチナは、1948年のイスラエル建国以来対立を繰り返してきた。現在パレスチナは、イスラエルをはさんで、ヨルダンに接するヨルダン川西岸地区と、エジプトに接するガザ地区の2つに分かれ、パレスチナ自治区と呼ばれている。



2008年12月末から2009年1月にかけて、突然イスラエル軍がパレスチナガザ地区を空爆し、侵攻した。わずか3週間の間に子どもや女性を含む1300人余のガザの市民の命が奪われた。

なぜこのようなことが起こり、現状はどうなっているのか？

ガザ地区のガザ・アル＝アズハル大学芸術人文学部英語学科のサイド・アブデルワーヘド教授から送られてきた写真によってパレスチナの現実を展示した。

展示会には、図書館を利用する方々だけではなく、多くの市民が来場しアンケートも頂きました。

「イスラエルのパレスチナへの武力行使は知っていましたが、こんな生々しい現地の写真を見たのは初めてでした。(後略。)」